

Title	メタフシカ 第30号 彙報/編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	メタフシカ. 30 p.155-p.156
Issue Date	1999-12-25
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66625
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【彙報】

● 哲学哲学史

専門分野・哲学哲学史は、哲学と哲学史とは不可分であるとの考えから、開設以来、両研究を一体化してきた。元来はフランスおよびドイツを中心とした二つの講座（哲学哲学史第一講座、第二講座）に分かれて、ヨーロッパ近世から現代にいたる哲学を文献学的、歴史的に研究していたのが、近年の改組にしたがって大講座として一本化され、それがさらに前年度からは本分野と現代思想文化学の分野との二分野に分けられ、現在新たな組織として存続している。伝統を踏まえつつ、英米系の分析哲学やプラグマティズム、そして日本の哲学をレパートリーに加えて、今日のテーマにも取り組んでいる。このような経緯から、専門分野・文化基礎学や現代思想文化学との緊密な連携体制のもとで教育・研究が行なわれている。本年度は、博士課程前期課程（修士課程）に9名、同後期課程に8名が在籍しており、里見重之、山形頼洋、入江幸男、吉永和加の各教官が、教育・研究指導にあたっている。

研究室において現在行われている研究・教育活動は、一八世紀以降の哲学史、現象学、自然哲学（里見教授）、スピノザ・ライプニッツ哲学、ベルクソン哲学、西田哲学の研究、「声」「キネステーズ」「表現」論（山形教授）、ドイツ観念論、問答論理学、コミュニケーション論（入江助教授）、バスキカル論、アンリ論、生の哲学における他者論（吉永助手）などを中心としている。また、専門分野・文化基礎学が主催する共同研究会（「自然と人間」）にも、教官、院生とも積極的に参加し、活動している。

● 現代思想文化学

専門分野・現代思想文化学は、昨年度より従来の哲学哲学史専攻から分かれて新しく開設された。欧米の近現代哲学研究を基盤としながら、いまや対応が焦眉の課題になっている社会的・文化的諸問題へも哲学的視点から積極的にアプローチすることをめざしている。具体的には、デカルトから現代にいたるフランス哲学、ドイツ観念論、生の哲学、実存哲学、存在論、解釈学および現象学等を幅広く研究対象とし、そうした研究を基礎に、生命、環境、科学、技術さらには宗教等の抱える現代的諸問題をも射程に入れて考究を進めている。現在、本年度入・進学生が博士前期課程一年次に三名、同後期課程一年次に二名所属しており、浅野遼二、溝口宏平、望月太郎の各教官が、哲学哲学史所属の各教官と提

携のもと、教育・研究指導にあたっている。

研究室において現在おこなわれている研究・教育活動として、ヘーゲル、ニーチェと生の哲学、キェルケゴールの実存哲学（浅野教授）、ハイデガー、解釈学、環境思想（溝口教授）、デカルト、マルブランシュからメーヌ・ド・ビランへ至るフランス哲学史、ライプニッツの認識論（望月助教授）の研究がなされ、講じられている。また今後、教官および院生の研究発表を公表する場として、ニューズレター『現代思想文化学』（仮称）の創刊、さらにインターネット上にホームページの開設を予定している。

● 臨床哲学

専門分野・臨床哲学は、昨年度より文学部「倫理学専修」と分かれて大学院文学研究科に設立され、哲学・倫理学的な思考をベースに、同時代のさまざまな社会問題が発生しているその現場に臨み、そこから問題の析出やその表現をその現場のひとつとともに試みるもので、哲学の『臨床的転回』とでもいうべきものをめざしている。これと並行して、従来の倫理思想史や、先端的現代倫理学の研究も活発に取り組まれている。大学院入試では社会人特別選抜枠も設けられ、昨年度に引き続き看護・教育関係の合格者があつた。本年度は、博士前期課程に十二名、同後期課程に八名が在籍しており、鷺田清一、中岡成文、本間直樹の各教官が研究指導にあたっている。

臨床哲学の活動はさまざまな媒体を通じて公開されている。昨年度より『臨床哲学 ニューズレター』を引き継いで創刊された臨床哲学論考集『臨床哲学』第二号には、研究室内外からさまざまな臨床現場に関する論文が寄せられている。同じく昨年度より創刊された季刊『臨床哲学のメチエ』では、毎号教育、ケア、哲学プラクティス、セクシュアリティなどの特集が組まれ、さまざまな現場と臨床の知のネットワークが試みられている。また上記機関誌を含め本専門分野の研究ならびに社会活動については、ホームページ（<http://pun701e.osaka-u.ac.jp/index.htm>）でも読むことができる。

各教官とも臨床哲学のプロジェクトに全力をあげて取り組むとともに、個人的には、鷺田教授は現在、現象学（フッサール）とメルロ・ポンティの研究、所有論、身体論、他者論、ホスピタリティ論に、中岡教授はヘーゲル研究、日本近現代哲学思想史研究、コミュニケーション論、ケア論に、本間助手は現象学研究、コミュニケーション論、システム論、

家族療法論、セクシュアリティ論に取り組んでいる。

【編集後記】

『メタフュシカ』第三十号（通算）をお届けいたします。本誌は従来、哲学哲学史講座より刊行されていた『カルテシアーナ』と『カンティアーナ』の二誌を受け継ぎ、旧哲学哲学史研究室と旧倫理学研究室（現、哲学哲学史・現代思想文化学・臨床哲学の三専門分野）の統合研究誌として生まれ変わったもので、本号がリニューアル後の第四号にあたります。皆様の忌憚のないご意見、ご批判をお寄せいただければ有り難く存じます。

（中岡）

一九九九年二月

『メタフュシカ』第三十号編集委員

入江 幸 男（哲学講座助教授）

中岡 成 文（哲学講座教授）

望月 太郎（哲学講座助教授）

編集補佐

入谷 秀 一（大学院博士後期課程）

メタフュシカ 第三〇号

平成十一年二月二〇日 印刷

平成十一年二月二五日 発行

編集兼
発行者

大阪大学大学院文学研究科哲学講座

〒565-0871 豊中市待兼山町一―五

印刷所

株式会社 田 中 プ リ ント

〒601-8607 京都市下京区松原通麴屋町東入